

高山

たかやま
高山の原生林を守る会

会報 第 135 号

2026年 1月



第 199 回観察会・大館山 里山の陽だまり観察会

第 199 回高山の原生林を守る会・大館山里山の陽だまり自然観察会を実施しました。参加者は 19 名でした。このエリアでの観察会は 15 年前に実施しています。丁度、東北大震災の前年になります。心地よい里山コースと記憶していましたが、15 年後の今は、ほとんど藪道となっており、刈払いなどの管理をする方もいないようでした。そして、隣接地には一般廃棄物処分場もできていました。

大館山は山城の遺構もありますが、知られざる文化財なのか、そこに至るルートは急斜面のトラバースでかつ安全な歩道とは程遠く、15 年前は三角点(271.4 m)を経由して周回していましたが、今回は蓬萊発電所までを往復することにしました。私は 8 日前から踏査を重ね、本番が 4 回目の大館山になります。季節の変わり目で来るたびに木々の装いが変わります。

これ以上ない小春日和の無風快晴の中、参加者は思い思いに、調整池沿いの木々の黄葉を楽しみます。途



アカシデ



イヌブナ



カモシカ

中にはツヤハダゴマダラカミキリの食害を受けたアカシデも。ササロードを通り抜けて管理道に出て、しばらく歩くと、前方に、子どものカモシカがたたずんでいました。参加者にとっては最高の出会いでしたが、カモシカにとっては迷惑だったかも。しばらくこちらの様子をうかがっていましたが、ゆっくりと林に消えていきました。

イロハモミジロードを辿り、蓬萊発電所へ、ここで発電された電力は福島市エリアで供給されています。エネルギーの地産地消です。発電所施設と紅葉の大館山をバックにして記念撮影。ここは人の営みと自然の交差点。なかなかない里山の光景です。

貯留水槽のある高台でイロハモミジの古木と安達太良連峰の展望を楽しんで、西斜面へ、赤みが濃くなったメグスリノキ群落の中にアガリコのケヤキが数株。参加者は里山の穏やかな森のたたずまいにどっぷり浸って、満足の様子。ゆっくりしたいところですが幹事さん達が芋煮を用意していますので、急いで戻ります。

自然の家に戻ると、キャンプ場で芋煮が丁度できたところでした。昨年からは豚肉、みそ味の福島方式と牛肉、しょうゆ味の山形方式の2種類です。おいしい芋煮に舌鼓を打ちながら歓談。穏やかな日差しに恵まれて晩秋の里山観察会も終了となりました。



イロハモミジ



メグスリノキとアガリコケヤキ



美味しかった芋煮

奥田博さんが愛したイーハトーブ・櫃取湿原と宮沢賢治ゆかりの地を訪ねて

松井さき子

高山の原生林を守る会では、これまでに奥田博さんと代表、会員の皆さんとともに、西和賀「カタクリの会」の観察会に参加させていただく機会が何度かありました。参加するたびに、西和賀の豊かな自然の中を歩いた思い出がよみがえります。

以前、観察会のあとに岩手の「宮沢賢治イーハトーブ写真館」へ案内していただいたことがありました。今年5月には、「高山」会員のNさん、Mさんと三人で、かつて奥田さんたちと歩いた同じ場所を再訪し、懐かしさがこみ上げました。その前日には、20年前に訪れた岩手県の湿原にも足を運びました。早池峰山を下山した際、山友に「すごい湿原がある」と案内してもらった場所で、当時の記憶はミズバショウが咲いていたことだけでした。入口には「櫃取湿原」と書かれた看板があり、今回その名を再び目にして記憶がつながりました。

■櫃取湿原の再訪

NさんとMさんが最近イーハトーブの山々を歩いていると聞き、櫃取湿原のことをNさんに尋ねたところ、知人に確認してくださり、ミズバショウの群生地であることが分かりました。その数日後、Nさんから「案内します」と連絡を



櫃取湿原



ミズバショウ



すごいね

いただき、当日が待ち遠しく感じられました。

当日、NさんとMさんが車で迎えに来てくださり、三人で岩手へ向かいました。約4時間半の道のりを経て湿原入口の駐車場に到着。曇り空の下、雨具を準備し長靴に履き替えて出発しました。山と山の間広がる大きな谷、斜面には親子の赤牛が数十頭。歩道には牛のフンが点在し、水たまりを避けながら進みました。道端にはミズバショウ、ネコノメソウ、リュウキンカが咲き、沢沿いにも白い花が点々と見えます。至るところにミズバショウの群落が広がり、思わず「すごいね」と声が出ました。



流れる沢



ヒメイチゲ



サルオガセ

湿原に下りると木道が分かれ、いくつもの沢が流れていました。透明な湧水が混ざり合い、勢いよく流れる沢、細い沢がいくつも走り、その両側にはミズバショウやネコノメソウ、リュウキンカが咲き誇っていました。木道脇にはヒメイチゲ、キクザキイチゲ、オトメエンゴサクなどの小さな花々も見られ、皆で写真を撮りながら進みました。途中、夫婦連れや登山グループに出会いましたが、広大な湿原はほとんど私たちだけで独り占めしているようでした。

奥まで進むと「40番」の立札があり、その先は立ち入りできませんでしたが、白く見える花々が続いていました。湿原の美しさに感動しながら歩き、途中のベンチで昼食をとり、13時30分頃に駐車場へ戻りました。久しぶりに訪れた櫃取湿原は、記憶以上に雄大で、心に残る一日となりました。

■盛岡と宮沢賢治の世界へ

湿原を後にし、盛岡市へ向かいました。まず啄木・賢治青春館を見学し、周辺の町並みを少し散策してから宿へ向かいました。宿では三人でゆっくりと楽しい時間を過ごしました。

翌日は宮沢賢治イーハトーブ館へ。ボランの広場から上へと登り始めると、花畑が一面に広がり、咲き始めたオキナグサなどの花々を撮影しながら宮沢賢治記念館へ向かいました。頂上では岩手の町並みを一望し、一度下ってから再び100段の階段を登り、記念館や山猫軒を巡りました。

その後、宮沢賢治童話村を訪ね、さまざまな展示を見学しました。私は初めての訪問で、どれも感激の連続でした。昼頃に童話村を出て、宮沢賢治の墓所にお参りし、「お腹がすいたね」と再びボランの広場へ戻り、念願だった“賢治の好物”サイダー付き海老天そばをいただきました。こうして宮沢賢治の世界を存分に味わい、二日間の行程を終えました。

改めてお二人には大変お世話になりました。



墓所



サイダー付き海老天そば



オキナグサ



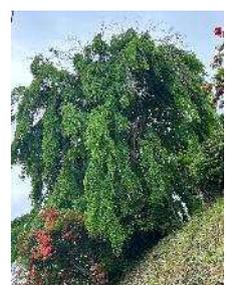
辺りを散策



100段の階段



ユキザサ



シダレカツラ

高山の原生林を守る会 2025 年定期総会報告

2025 年 11 月 23 日(日) 午後 13:00~16:00

東部学習センター会議室

1. 2025年活動報告

月 日	内 容	参加人数
11月24日(日)	第195回自然観察会 高松山・峨嵋山 陽だまり里山観察会	20名
12月17日(火)	第9回(R6年度第1回)登山フィールド部会	2名
2月26日(火)	磐梯朝日国立公園磐梯吾妻・猪苗代地域満喫プロジェクト地域協議会	1名
3月4日(火)	吾妻山周辺森林生態系保護地域の保安全管理に関する検討会	1名
3月9日(日)	第196回自然観察会 男沼・仁田沼自然林観察会	7名
3月12日(水)	第1回吾妻地区登山道意見交換会	1名
4月27日(日)	第197回自然観察会 口太山・早春の植物観察会	14名
5月14日(水)	令和7年度「みどりの日」自然環境功労環境大臣表彰、表彰式	1名
6月21日(土)ー2 2日(日)	西大巔・西吾妻山山道誘導ロープ設置ボランティア(環境省と共同一般公募)	3名(+22名)
7月13日(日)	第198回自然観察会 鎌沼高原植物観察会	15名
8月25日(月)	西吾妻登山道整備現地調査(環境省と共同)	1名(+4名)
10月18日(土)	西吾妻登山道誘導ロープ取り下げ&登山道整備作業ボランティア(環境省、NF米沢と共同、一般公募)	4名(+22名)
10月27日(月)	第2回吾妻地区登山道意見交換会	1名
11月23日(日)	第199回自然観察会 大館山・陽だまり里山観察会	

2025年 高山の原生林を守る会 決算書 (決算日:2025年11月15日)

収入			(単位 円) 支出			(単位 円)		
科 目	予算額(A)	決算額(B)	摘 要	科 目	予算額(A)	決算額(B)	摘 要	
前期繰越金	223,258	223,258		会議費	2,000	800		
年会費	30,000	38,000	支払い31名(会員数42名)	郵送費	10,000	13,800	会報 (No 131~No134)	
観察会参加費	30,000	28,000	500円×56名	観察会経費	5,000	4528		
雑収入	1,000	17,578	ボランティア支援金(6名)、利息	交通費	16,000	11,000	観察会車代他	
合 計	284,258	306,836		保険代	15,610	15,610	定額	
				HPプロバイダー料	4,455	4,730	含手数料	
収 入		306,836		印刷費	30,000	28,000	会報、資料等印刷経費	
支 出		80,662		登山道整備費	10,000	2,194	ルートン、メネーデル他	
差引残高		226,174		ボランティアリフト代	20,250	0		
				雑費	1,000	0		
収支差引残金	226,174円		は次年に繰り越すものとする。			予備費	169,943	0
				合 計	284,258	80,662		

2026年事業計画

2026 年は自然観察会と西吾妻登山道保全ボランティア作業を実施します。

2026 年自然観察会計画

回数	月日	候 補 地	テーマ	集合 時間	解散 時間	担当者
200回	3/1(日)	仁田沼・男沼周回	雪上観察	8:00	15:30	佐藤 守
		集合場所 四季の里正面入り口駐車場				
201回	5/10(日)	山梨兜(栗子・明神道)	早春の植物観察	8:00	16:00	渡邊アヤ子
		集合場所 四季の里正面入り口駐車場				
202回	7/26(日)	樋沼～鳥子平	高原植物観察	8:00	16:00	渡辺京子
		集合場所 四季の里正面入り口駐車場				
203回	10/25(日)	花塚山(飯館コース)	紅葉観察	8:00	16:00	青柳静子
		集合場所 小鳥の森駐車場				五十嵐礼子
204回	11/22(日)	小鳥の森	里山観察	8:00	12:00	松井さき子
		集合場所 小鳥の森駐車場				
		総会会場	東部学習センター	13:00	16:00	

2026 年役員

代表(会報/HP) 佐藤 守 事務局長 空席
 会計 青柳静子、渡邊アヤ子 会計監査 丹治芳廣
 幹事 佐藤守、青柳静子、渡邊アヤ子、松井さき子、渡辺京子、五十嵐礼子

2026年西吾妻の登山道保全ボランティア日程

月日	曜日	山域	作業内容	備考
6月 9日	(火)	西大巔	誘導ロープ設置、植生回復	一般公募、NF 米沢との共同開催
6月 10日	(水)	(予備日)		
6月 14日	(土)	西吾妻	現地調査	環境省登山道保全モデル事業
6月 15日	(日)	(予備日)		
9月中下旬		西大巔・西吾妻	登山道整備	環境省登山道保全モデル事業
9月中下旬		西大巔・西吾妻	誘導ロープ取下、保全作業	一般公募、NF 米沢との共同開催
10月 10日	(土)	西大巔		
10月 11日	(日)	(予備日)		

**ボランティア作業に係るロープウェイ・リフト代を支援していただける方を求めています。ご協力いただける方は下記に振込をお願いします(通信欄に「ボランティア資金」と記載をお願いします)
郵便振替:02170-0-24351「高山の原生林を守る会」へ**

西大巔－西吾妻間登山道誘導ロープ取下げ&整備作業報告

佐藤 守

10月18日(土)に西大巔から水場手前までの登山道保全整備作業に参加してきました。この整備作業は、9/8日に境省主催で予定されていましたが、降雨のため中止となっていました。今回、高山の原生林を守る会のロープ取下げ作業の日程と併せて開催されました。

参加者は高山の原生林を守る会3名、ボランティア参加の登山者11名、アドバイザー1名、環境省職員とパークボランティア5名、山形県・米沢職員3名、グランデコ職員1名、アジア航測職員2名、総勢26名でした。官、民、学、ボランティアが一緒になって取り組む植生回復・登山道整備活動は全国的にもレアなケースのようです。今回の初ボランティア参加者は3名のみ。あとはリピーターの方々に、ほとんどの皆さんが作業内容も経験していました。

秋晴れの中、早出組(5時出発)、健脚組、ベテラン組に分かれて西大巔へ。今回は、私も順調に登れたので最初から作業に参加できました。

早出組のアドバイザー中里さんが事前に溝切りポイントを指定してくれでいて、健脚組はてきぱきと登山道整備。ベテラン組も崩壊斜面の植生回復作業に手分けして取り組まれていました。天元台から登ってきた山形県と米沢市職員の方に、チングルマ挿木地点で、ここでの取り組みの考え方(近自然工法、順応的管理、遺伝的攪乱回避)を説明しました。山形県と米沢市職員の方々も熱心に根巻シートなどの敷設作業を行っていました。全員、西大巔山頂にて昼食。絶景の中、山頂での交流を深めました。

午後も予定時間を超えるほど、作業を進めていただいたおかげで、崩壊斜面の登山道は本来の登山道らしい姿に大変身しました。25年前からこの斜面の登山道の状態を見てきた私は、信じられないほどに様変わった光景に感慨深いもの



整備後の登山道を登る登山者



登山道の溝切り



作業を終えて(西大巔山頂)



作業開始



崩壊斜面を土留め

がありました。

作業を熱心にされている皆さんの明るい笑顔がとても頼もしかったです。改めてご苦労様でした。この取り組みはボランティアの皆さんの参加がなければ実現できないこと。この輪がより大きくなることを願うばかりです。

9 マタ・アトランティカの樹木

(3)パイネイラ(*Ceiba speciosa* アオイ科パイネイラ属)

かつては「パンヤ科 (Bombacaceae)」に分類されていましたが、現在はアオイ科の Bombacoideae 亜科に含まれます。ブラジルを象徴する樹木。ブラジル全土に広く分布し、マタ・アトランティカでも代表的な樹木です。

イッペイと同じく落葉性ですが、葉が落ち始める頃に花が咲きます。幹には多数の円錐状のトゲが密生します。樹齢を重ねると幹は樽のように膨らみます。



咲き始めたパイネイラ



幹には多数の円錐状のトゲ

耐乾性が高く、ブラジルの多様な生態系に適応することから、都市部でも街路樹として広く利用されています。果実が熟すと裂け、中からパイナ (paina) と呼ばれる綿毛状の繊維が大量に出ます。パイナは軽くて柔らかいですが強度が低く、布には向かず、枕やぬいぐるみの詰め物などに利用される他、水質浄化(油吸着)への利用が検討されています

モジ・ダス・クルーゼス郊外の果樹園入り口には見事な古木が残され、周辺では明るい緑の葉を着けたパイネイラの若木が列をなして育っていました。マタ・アトランティカの樹木再生のために植えられたものでした。2023 年の年末に訪れた巨岩の山、ペドラ・ベラで赤桃色鮮やかな大型の美しい花を見ることができました。



ペドラ・ベラ



壮木

(4)シビピルナ(*Caesalpinia peltophoroides* マメ科セノスティグマ属)

ブラジル固有の常緑樹。マタ アトランチカを象徴する花木の 1 つです。高さ 28 メートルに達する派手で大きな木です。セビピラとも呼ばれます。パウ・ブラジル (*Paubrasilia echinata*) の近縁種で、大西洋熱帯雨林に自生します。しかし、心材は赤くはなくパウ・ブラジルのような染料は取れません。樹皮にとげがないこともパウ・ブラジルと異なる点です。サンパウロ州固有種。

パウ・ブラジル同様に黄色い花を咲かせます。鳥類の訪花が多く、鳥類が種子散布を担っています。荒廃地に最初に侵入する先駆種です。

リオデジャネイロ州からサンパウロ州の大西洋岸を走る主幹道路沿いでは、黄色い花を冠のように咲かせたシビピルナの群落で森が黄色く染まります。

また、都市緑化・森林再生植林に広く利用されており、森の中に沈むサンパウロ大学周辺にも大木が見られます。ペドラ・ベラでもパイネイラと美しい花の競演が見られました。黄色を好むブラジル人にぴったりの樹木と言えるでしょう。

パウブラジルとシビピルナの比較

	Brazilwood	Sibiruna
	<i>Paubrasilia echinata</i>	<i>Cenostigma pluviosum var. peltophoroides</i>
原産国	Brazil	Brazil
用途	Bow	Yellow
心材の色	Firey	Yellow
花の色	Yellow	Yellow
樹高	10-15 m	8-18 m



シビピルナ(サンパウロ大学)



シビピルナの花(ペドラ・ベラ)

ナガボノワレモコウ (*Sanguisorba tenuifolia* バラ科ワレモコウ属)

吾妻連峰の明るい湿原や湿った草原で生育する多年草。安達太良山系では確認されていない。湿潤環境でも根腐れしにくく、広い水分条件に適応するが、富栄養化には弱く、過度の窒素負荷で群落が消失しやすい。

葉は互生。奇数羽状複葉、小葉は楕円形～倒卵形で、鋸歯は明瞭。葉質はやや厚く、乾燥に対して強い。基部の葉は大きく、茎上部では小型化する。葉色は、表面は濃緑色で裏面はやや淡い。株全体が無毛である。葉裏に毛がないと気孔が露出しやすく、湿潤環境下で蒸散リスクが低い条件では、ガス交換効率を高める効果がある。

花は頂生。主茎の先端部に穂状花序を着生する。花弁は無く、緑白のガクに囲まれた小花が密生する。ガク片は4枚、雄しべは4本で葯は黒い。雌しべは1本で柱頭は半透明の乳頭状突起が密に並ぶ。この形は花粉の付着効率を高める役割をもつ。開花は先端から下に咲き下りる。雄ずい先熟の傾向がある。受粉は虫媒、風媒混合型である。ナガボノワレモコウの花はシロバナトウチソウに酷似するが、葯の色が明確に異なり、シロバナトウチソウの葯は、黄白～紅紫色である。ナガボノワレモコウの花序や茎の無毛性は、風通過性や視認性を高め、混合送粉型の送粉効率向上に寄与する。

高原の風にそよぐ、あずき色を思わせるワレモコウの赤い穂は、まさに秋の風物詩といえる。秋は山から高原へと静かに下りてくるが、その季節の移ろいをつなぐように、ワレモコウに似た白い花が真夏を過ぎた頃から穂を伸ばし、ゆっくりと楚々とした花を咲かせてくれる。ナガボノワレモコウは、吾妻山に訪れる秋をいち早く知らせる花なのかもしれない。



アズマシャクナゲ (*Rhododendron degronianum* バラ科キイチゴ属)

吾妻・安達太良連峰のブナ帯上部から亜高山針葉樹林帯の林内や岩場、湿潤な谷沿いを好んで植生する常緑樹。日本固有種。半陰性で分布の起源は南方系に属する。吾妻・安達太良連峰では耐寒性と強光順応性が高い北方系のハクサンシャクナゲとモザイク状の住みわけが見られる。植生地は風衝地を好むハクサンシャクナゲより標高で400 m程度低い。

葉は互生。葉形は長楕円形。革質で表面は光沢がある。裏面に淡褐色～灰褐色の綿毛が密生する。これがアズマシャクナゲの大きな特徴で、ハクサンシャクナゲの葉裏は白く無毛なので区別できる。葉縁は全縁で裏側に巻く。

花は頂生。枝先に散状花序を形成し、5～12個の花を密生する。合弁花で花形は漏斗状鐘形。花色は淡紅色～紅紫色、蕾は濃赤桃色で開くと淡くなる。花冠の先端は5裂する。雄しべは10本、花糸の下部に白毛が着生する。葯は淡褐色～黄褐色。雌しべの花柱は雄しべより長く、雄しべの中央から突き出て先端は上に曲がり、柱頭が上向く。柱頭の色は淡黄色である。

花粉媒介昆虫はマルハナバチである。雄しべが花冠より短く、花柱がわずかに長い構造は、訪花時にハチの背面に花粉を付着させ、帰路で他花の柱頭に接触させる典型的な配置である。開花期は5月下旬から6月中旬でハクサンシャクナゲより2週間程度早い。

まだ寒さの残る残雪期のオオシラビソの森で、ひっそりと、それでいて胸を打つ鮮やかさで咲くアズマシャクナゲ。その静かな輝きは、やがて夏の稜線で華やかな姿を現すハクサンシャクナゲへと季節を手渡す。二つのシャクナゲが織りなすこの移ろいは、山に息づく季節の物語でもある。まだ寒いための開いたアズマシャクナゲの花芯部にはコバエ類がよく集まる。防風、蜜付のいい休み場なのだろう。



第 200 回自然観察会 男沼・仁田沼自然林観察会

日時：2026年3月1日（日）8：00～15：30

集合場所 四季の里正面入り口駐車場

集合時間 8:00 参加定員 20名

内容 カタクリの会・瀬川ご夫妻を招き、冬の男沼・仁田沼周辺の自然林を散策し、フィールドサイン、冬芽等の春を待つ森の表情を観察します。

準備するもの 昼食、登山靴・長靴等、雨具、スパッツ類、防寒具、帽子、防寒手袋（+毛手袋）、着替、ゴミ袋、筆記用具、メモ帳、冬季歩行用具（スノーシュー、カンジキ、スキー、ストック）

* 装備、その他不明な点があれば申し込み時にご相談下さい。

参加費用：保険代(500円)、申し込み：2月20日(金)まで佐藤守(024-593-0188)へ電話またはメールにてお願いします(電話申込は午後7時～9時でお願いします)。

「設立 40 周年&第 200 回自然観察会」記念講演&交流会

自然観察会 200 回を記念して、カタクリの会の瀬川強さんをお招きして講演会と交流会を実施します。

講演会 日時：2026年2月28日(土)14:00～16:00 場所：土湯温泉 YUMORI(TEL:024-595-2170)

「講演会のあと、設立 40 周年と自然観察会 200 回を皆さんとお祝いするささやかな交流会を開きます。

会費：講演会 500 円(入湯できます) 交流会 2500 円 宿泊 ドミトリー(朝食付、二段ベット) 6000 円

定員：講演会 40 名 交流会 20 名 宿泊 10 名(いずれも先着)

参加希望者は参加する内容(講演、交流会、宿泊)を添えて 2月20日(金)まで佐藤守(024-593-0188)へ電話またはメールにてお願いします(電話申込は午後7時～9時でお願いします)。

瀬川 強(せがわ つよし)さん プロフィール

1985年にカタクリの花に魅せられて西和賀町へ移住し、以来40年以上にわたり豪雪地帯・西和賀の自然を撮影し続ける自然写真家。1990年に「カタクリの会」を結成し、毎月「奥羽自然観察会」を一度も休むことなく主宰している。日本自然保護協会自然観察指導員、日本野鳥の会会員などとして地域の自然保護にも尽力し、2016年度「みどりの日」自然環境功労者として環境大臣表彰を受賞。著書に『雪国の草花』『奥羽の自然 西和賀大地』などがあり、西和賀の四季と生命の営みを独自の視点で伝えている。

2026年カタクリの会奥羽自然観察会計画

月日	曜日	回数	テーマ	観察地(集合時間・場所)	企画展は古民家ギャラリー「ツキザワの家」での開催予定 カタクリの会は自然観察会を目的とした会で、どなたでも参加できます。参加申込は各観察会の1ヶ月前から電話で受け付けます。 天候などの状況によって観察地の変更もあります。 参加費は500円 通常は午前中開催となり、12時解散となります カタクリ通信を偶数月に発行しており、希望者には年間千円で年6回送付します。 (郵便振込：カタクリの会 02350-5-38765) 連絡先 代表 瀬川 強 〒029-5512 和賀郡西和賀町川尻 41-72-15 電話 0197(82)3601 email:tsuyosi.segawa1954@gmail.com
1/18	日	421	冬の生き物	ツキザワの家周辺(10時：湯夢プラザ)	
2/8	日	422	雪の自然観察	雪国文化研究所(10時)前日雪あかり	
3/15	日	423	春を見つけよう	ツキザワの家周辺(9時：ツキザワの家)	
4/26	日	424	カタクリの里歩き(春の企画展)	ツキザワの家周辺(9時：ツキザワの家)	
5/17	日	425	夏の渡り鳥	ツキザワの家周辺(9時：ツキザワの家)	
6/14	日	426	新緑の森	ツキザワの家周辺(9時：ツキザワの家)	
7/12	日	427	夏の花と虫	ツキザワの家周辺(9時：ツキザワの家)	
8/23	日	428	水生生物と沢歩き(夏の企画展)	ツキザワの家周辺(9時：ツキザワの家)	
9/13	日	429	木の実と秋の花	ツキザワの家周辺(9時：ツキザワの家)	
10/11	日	430	落葉とキノコ(秋の企画展)	ツキザワの家周辺(9時：ツキザワの家)	
11/1	日	431	冬の渡り鳥	錦秋湖周辺(9時：湯夢プラザ)	
12/6	日	432	初冬の森	西和賀町内(9時30分：湯夢プラザ)	

振込による会費の納入は、郵便振替02170-0-24351「高山の原生林を守る会」へ

「高山」高山の原生林を守る会会報 第135号 2026年1月発行

編集・発行：高山の原生林を守る会 HP：<http://adumatakayama.justhpbs.jp/index.htm>

(URLが変わりました)

代表連絡先：佐藤 守 Phone 024-593-0188(夜間7時～9時)

郵便振替：02170-0-24351「高山の原生林を守る会」

入会方法：年会費(1000円)を添えて上記まで

編集：佐藤